



3回の個展を終えて

森本理事長よりCDAのつれづれに昨年(2019.12)開催した傘寿の個展に関連して書いて貰えないかと依頼があった。過去に幾多の展覧会へ出展をしてきたが、個展といえる規模の展覧会は3回しかやっていない。その3回の展覧会が偶然にも人生の節目の開催であった。第1回目が還暦、第2回が古希、今回第3回が傘寿です、なんとも不思議な巡り合わせです。そのようなことから、20年前にタイムスリップして記述することにした。

第1回目の個展はスペースプリズム・デザイナーズギャラリーで、当時はマツイビル3階にあったと記憶している。その20年前の資料を、整理下手な私の書類の中から探すのは、至難のワザであったが1冊のファイルを探し出した。しかし肝心のDMがない。困りはてたすえ、スペースプリズムの高北氏に、希望をつなぎ電話を入れた。高北氏は、全部私がデザインしているので、すべて残してあるとの返事に安堵。数日後2枚のDM(図1)が送られてきて感謝、感謝。

個展の前年度1999年に、高北氏から個展の依頼を受けて、私は速やかに受諾した。世の中に数々のギャラリーがあるが、デザインを中心に展覧会を行うギャラリーは高北幸矢氏が経営するスペースプリズム・デザイナーズギャラリーしかないのです。その意味でこのギャラリーで企画個展ができるのは、一種のステータスであった。

展覧会は、舟橋辰朗「クラフトワーク展」素材との語らい、2000年10月12日～17日に開催した。永年、均質的なプロダクトデザインを行ってきたが、20数年前、あるメーカーから木のおもちゃの開発を頼まれた。それがキッカケで木の持つ暖かみや肌触り、多様な木樹に魅せられてしまった。それ以来木を中心に、その素材と語らいながら楽しく造ってきた。(図2～図6)しかしこの時のパーティーや展示風景の写真が、カメラを地下鉄に忘れたために、無くしてしまったことがとても残念。



図1 DM Design 高北幸矢氏



図2 ぐい呑・タンブラー



図3 三脚ぐい呑・タンブラー



図4 ナッツボール



図5 バレッタ



図6 木うちわ

第2回目の個展は、セントラル画材の故中田浩社長から展覧会の内容が、ほとんど平面ばかりなので是非立体系の作品展をやりたいので、お願いしたいということから開催することになった。私も永年地場産業や伝統技術を受け継ぐ職人と関わって、それから生まれた成果物がありこの機会に観てもらいたいという思いがあった。

展覧会はセントラル・アートギャラリーで「技と素材とデザイン舟橋辰朗展」2010年11月9日～14日に開催した。(図7) 第1回展から10年経ち図らずも古希という節目の年での開催となった。展示作品は、愛知県及び三重県の技術アドバイザーや名古屋市経営診断事業専門委員として、地場産業の組合や特定職人へのデザイン指導やデザイン開発などから生まれた製品です。素材的に見ると木材、陶器、石材、和紙、布、ガラス等。日本の伝統産業は、職人の素晴らしい技術によって、世界に誇れる伝統製品を造り出してきた。しかし、社会の変化や生活様式の変化などにより、伝統製品が社会に対応できなくなり、職人も激減している。この様な状況を少しでも打破するために、デザインによる商品開発を行い又職人のデザイン意識を高め、自らが考えて造る様に指導も行ってきた。そのようにして、優れた技術と素材を活かしデザインの力によって、生み出された製品たちです。しかし、展示風景写真をウっかり消去したため残念ながらありません、パーティー(図8～図12)と展示作品(図13～図18)は保存がありその一部を掲載。



図7 Poster・DM Design 青山 茂氏



図8 主催者挨拶 故中田浩氏



図9 来賓挨拶 岡本滋夫氏



図10 乾杯挨拶 元気な頃の高橋省二氏



図11 パーティーの様子



図12 展示の様子



図13 ワインクーラー・ボール



図14 桐たんす



図15 調理食器



図16 御影石のろうそく立



図17 日本初の立体絞り提案



図18 日本初の提灯技術を使用した間仕切りすだれ

第2回展のパーティーのおり、故中田社長より10年後にまた個展をやって下さいよと、強く言われたが、全く考えもしていなかったもので、そうで～すねと少々苦笑しながら返事をした。そのことはすっかり忘れていて、昨年(2019)2月中学校の同窓会の案内で傘寿を祝う……という文を見て、故中田社長との約束に気づき、中田雅文社長にその旨を話して第3回の個展が実現した。

この個展が私にとって最後の展覧会になるのであろうと思った。私が永年やってきたプロダクトデザインのレベルを高く実現していくために、20年以上前から自身のスタディーを兼ねて探求をしてきた作品を展示することにした。それは生活で使用するという用途を持つものではない造形物で、アートでもなく、またデザインでもない、大変私的な創作物で多分、私のデザインの根底にある原点、源流かもしれません。

タイトルは、「造形・遊形・自然形舟橋辰朗展」とし2019年12月10日～14日において前回と同じセントラル・アートギャラリーで開催した。(図19)5日間と短い期間であったが、CDAの皆さんやデザイン界から多くの方々にご来場いただきました。また中には久しぶりにいい展覧会を観たよ、とお褒めを頂きこの展覧会を開催して良かったと実感した。

この展覧会に際し、企画から搬出までお世話をいただいたセントラル画材の船田善弘部長、司会の國井猛課長。(図20)ポスターDMデザインの山川真輝氏、テーブルセッティングの水野誠子氏／橋本玲子氏、写真撮影の若松寿氏。そして乾杯挨拶の宇賀敏夫氏、(図21)締めめの挨拶の河村宏三郎氏(図22)にご無理をお願いしました。さらには多くの皆様から御酒など頂き、心より御礼申し上げます。

少し枚数が多いですがパーティー、会場風景、展示風景をご覧ください。(図23～図28)

そして最後に、サプライズの図録、(図29)これが展覧会終了の数日後に届きそのスピードと出来上がりにビックリ、その送り主は丹羽幸子氏で、これの印刷は法人会員のフタバ社によるものであった、私にとって貴重な財産になりました、重ねて御礼申し上げます。



図20 主催者挨拶 船田善弘部長・司会國井課長



図21 来賓挨拶 宇賀敏夫氏



図22 締めめの挨拶 河村宏三郎氏



図23 パーティー風景

図19 Poster・DM Design 山川真輝氏



図24 会場全景



図25 造形作品



図26 遊形作品



図27 自然形作品



図28 造形関連作品



図29 丹羽幸子氏デザインの図録

舟橋 辰朗

中部デザイン協会会長
フナハシ モノコトデザイン主宰
プロダクトデザイナー
デザインアドバイザー

中部デザイン研究所代表取締役歴任。
現在プロダクトデザイン全般に関わるデザインを行いながら、
木を主体にしたデザイン開発や、伝統技術継承のためにデザイン支援を行なっている。